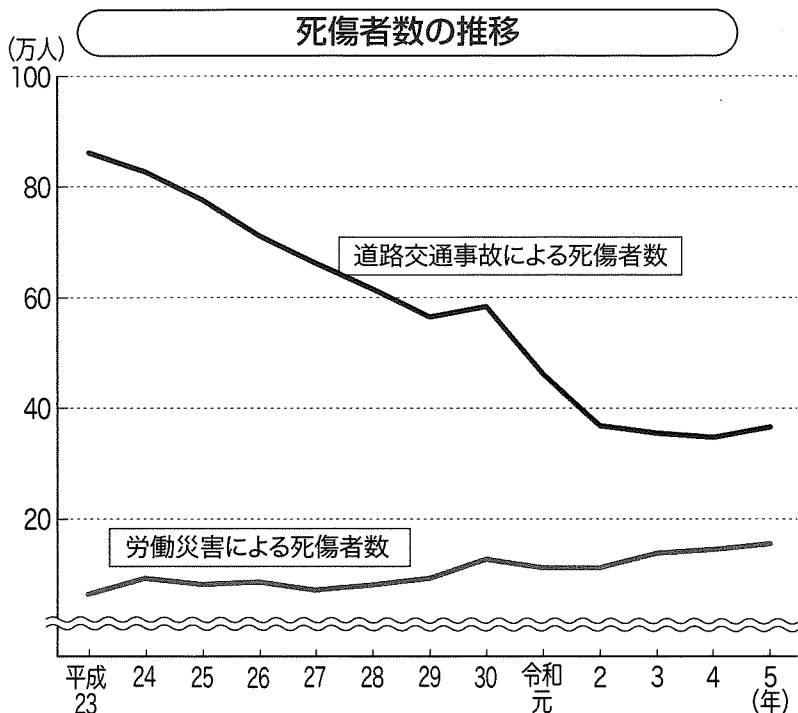


交通事故、労災事故が増加傾向

～安全意識や安全行動の低下・低迷か～



◆令和5年中の交通事故による死者数は2678人で、警察庁が統計を保有する昭和23年（1948年）以降、最少件数を更新した令和4年より増加に転じました。

ここ数年、交通事故死者数及び重傷者数共に減少傾向にありましたが、令和5年は死者数が2678人（前年比68人増、2・6%増）、死傷

者数が36万8273人（前年比9千062人増、2・5%増）と増加傾向になっています。

近年の交通事故の特徴として、これまで高齢者、横断歩道、自転車等が挙げられていましたが、全年齢の全交通手段等で交通安全意識や安全行動が低下してきたからではないかと危惧されています。

◆労働災害も増加傾向です。昨年の休業4日以上死傷者数は135千人（推計）で、前年の約13万2355人の3%増（サービス業4・7%増）と想定されています。

労働災害の発生状況は全産業で「転倒」、「墜落・転落」、腰痛などの「動作の反動・無理な動作」、「挟まれ・巻き込まれ」…と続き、第3次産業では宅配などの増加で「道路での交通事故」が多発しています。

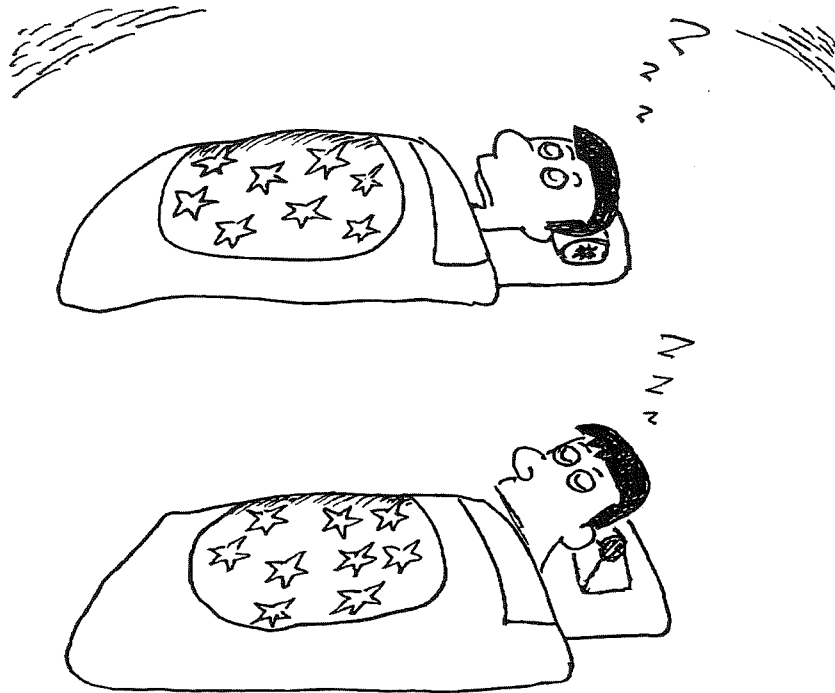
労働災害の防止は、労使で労働安全衛生規則などの法令を遵守し、リスクアセスメントなどで職場の不安定な状態や行動を改善して行くことが肝要です。

安全衛生トピックス

江戸時代からの言い伝え

「殿様マクラ症候群」にご用心を

——マクラが高いと脳梗塞などのリスクが高く



寝るときのマクラの好みは人それぞれですが、高すぎるマクラは健康上の深刻な問題になる：国立循環器病研究センターは、脳梗塞を起す原因となる首の動脈の病気に高く硬いマクラの使用が関係していることを、患者らを対象とした研究で突きとめました。

研究によると、首のそばを通る動脈の内側が裂ける「突発性椎骨動脈解離」という病気の患者で、特に原因の見当たらない症状の中に、極端に高いマクラを使用している患者がいることにベッドサイドで研究者が気付き、マクラとこの病気との関係を疑いました。

突発性椎骨動脈解離は、首の後ろの血管が裂け、脳卒中を起こします。働き盛りの世代を含む15～45歳の脳卒中中の1割程度を占め、うち2割程度が亡くなったたり後遺症が残ったりしています。

マクラが高いと首の屈曲（あごが胸につく方向に曲がっている度合い）が大きくなるほか、寝返りなどで首が回るときに血管が傷つくことが考えられるといえます。

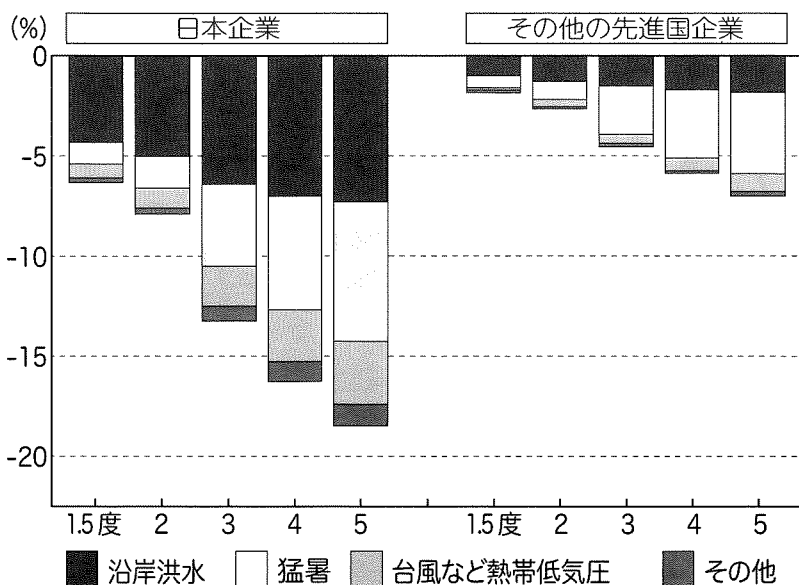
高いマクラが危険なことは江戸時代に「殿様マクラ」と呼ばれており、マクラの高さは「寿命3寸、楽4寸」といわれており、その意味は「高さが12センチ程度のマクラは髪型が乱れずによい」が早死にする。9センチ程度は早死にしないで済む」という意味で流布していたといえます。

（資料・詳細「西日本」24・02・16ほか）

気候変動の悪影響 日本企業は欧米の3倍

米国の評価機関が算定

災害・異常気象の企業価値への影響



(注) MSCI 試算。極端な低音が減ることによるプラス影響は「その他」から除いた。日本企業は MSCI ジャパン IMI 指数、他の先進国は MSCI コクサイ IMI 指数

我が国の気候変動に伴う自然災害や異常気象の悪影響は他の先進国の3倍——。米国の評価機関が世界の約5000企業を対象に、台風や洪水による設備の損害、猛暑による生産性低下などの影響を分析したところ、日本企業は欧米などの企業より影響度が3倍も大きいことが分かったといいます。

これにより、日本の企業価値を2割下げる可能性があり、気候変動対策の遅れは日本株のリスクとして意識されかねないといいます。

調査は、気候変動に伴う台風や沿岸地域の洪水や猛暑などによるコストを21世紀末まで推計し、現在価値に引き直して企業価値への影響を算定したものです。

分析では、温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」の目安の1.5度の場合、日本企業の企業価値に与える影響はマイナス7%でした。2度ではマイナス9%で、3～5度だとマイナス20%に膨らむといえます。悪影響を及ぼす大きさは、洪水、猛暑、台風の順でした。

日本企業への異常気象や災害の影響が他の先進国に比べて大きいのは、「高温多湿という気候条件や台風の多さなどが影響している可能性がある」としています。

気象庁では、今年の夏も全国的に猛暑を予測しています。熱中症対策をはじめ、台風等の気象災害の防止に取り組む必要があります。

(資料・引用 「日経」24・01・19ほか)

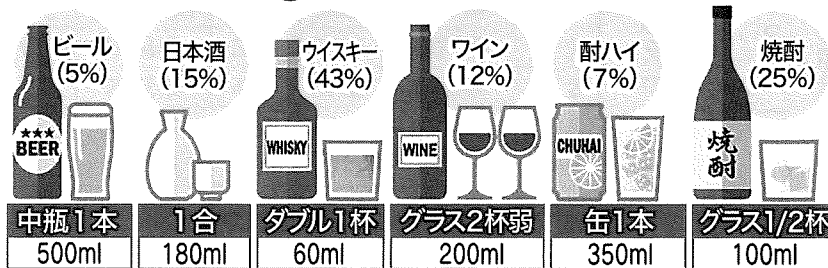
安全衛生トピックス

厚労省が「飲酒ガイドライン」を決定

……高齢者の飲酒は認知症や転倒の危険……



純アルコール量 20g とは



飲酒に伴うリスクを周知し、健康障害を防ぐため、厚生労働省は初の指針「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」を正式決定し、2月19日に公表しました。

指針では、酒量より純アルコール量に着目することが重要だとし、疾患別に発症リスクを例

示しました。大腸がんは1日当たり約20g以上で、高血圧は少量でもリスクが高まるとしています。

指針によると、1日当たりの摂取量として脳梗塞は男性40g、女性11gで発症の恐れが上がり、女性の乳がんは14g、男性の前立腺がんは20g。男性は少しでも飲酒すると胃がんや食道がんを発症しやすくなるといわれています。

高齢者は若い時に比べて酔いやすく、一定の酒量を超えると認知症や転倒のリスクが高まるといいます。

避けるべき飲み方として、不安・不眠を解消するために飲む、他人に強要するなどの例を示しています。

健康への配慮では、飲む前や飲んでいる最中に食事を取ったり水を飲んだりする。1週間のうちに飲まない日を設けるといったことが有効だとしています。

厚労省の担当者は「体への影響は年齢や体質によって異なり、ガイドラインを参考に自分に合った飲酒量を決めることが大切だ」としています。

(資料・引用「日経」24・02・20)

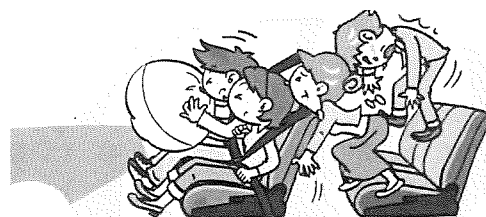
依然低調！後部座席のシートベルト

～「シートベルト着用状況全国調査」が公表～

「一般道路の後部座席シートベルト着用率」

(令和5年10月～11月)

着用率ベスト15 (%)			着用率ワースト15 (%)		
1位	群馬県	62.7	47位	沖縄県	12.6
2位	山梨県	59.3	46位	鹿児島県	30.2
3位	岩手県	56.4	45位	愛媛県	32.8
4位	山形県	56.1	44位	宮城県	33.4
5位	岐阜県	54.5	43位	宮崎県	33.8
6位	東京都	54.0	42位	佐賀県	34.6
7位	熊本県	53.6	41位	京都府	36.1
8位	埼玉県	53.4	40位	福岡県	36.2
9位	神奈川県	51.8	39位	高知県	36.6
10位	新潟県	51.4	38位	福井県	37.1
11位	茨城県	49.2	37位	富山県	37.2
12位	鳥取県	48.5	36位	三重県	37.6
13位	長野県	48.2	35位	大分県	38.2
14位	奈良県	47.6	34位	大阪府	38.2
15位	滋賀県	47.5	33位	徳島県	39.7



日本自動車連盟（JAF）は、警察庁と合同で令和5年10月から11月に実施した「シートベルト着用状況全調査」の結果を公表しました。

その結果運転席の着用率は、一般道で99・2%（前年比0・1%増）、高速道で99・6%（昨年同値）とほぼ100%に近く、助手席もそれぞれ95%を超えています。

しかし一方、後部座席の着用率は、高速道でも78・7%（前年比0・7%増）と運転席と比較して低く、特に一般道では43・7%（前年比0・8%増）と極めて低くなっていますが、都道府県別で見ても大きな地域差が認められました。（上表）

JAFでは「改めて後部座席でのシートベルト着用の重要性が十分に浸透されていないことを示す結果となった」としています。

事故の際、後部座席でシートベルトをしていないと、車内のピラーやシートなどに激突したり、運転者や助手席の人など同乗者に危害を与えたり、車外に放り出されるなど重大な危険が生じます。

警察庁によると、後部座席シートベルト非着用時の致死率（死傷者数に占める死者数の割合）は、高速道路で着用時の実に15・4倍、一般道路でも3・6倍と非常に高くなっています。

警察庁では「同乗者の安全を守るために、運転者は乗車時に全ての座席でのシートベルト着用を確認して欲しい」と呼びかけています。

（資料・引用「産経」24・02・20ほか）

海外の事故・災害から

…2024年2月…

- ▼ケニア ナイロビ ガス充填会社（違法建設）でタンクローリー爆発、周辺に延焼。死者不明3人、約3百人負傷。
- ▼チリ バルパライソなど 大規模な山火事が相次ぎ、人口密集地へ延焼、160カ所以上で消火活動。死者不明131人。
- ▼インド マディヤプラデッシュ 爆竹工場で大規模な爆発。大量の炎と黒煙、爆発音が鳴り響く。周辺の建物も10棟以上被害。死者不明11人、負傷174人。
- ▼フィリピン ミンダナオ島 長雨による大規模地滑り。集落や、金鉱山の労働者のバスが巻き込まれる。死者不明117人、負傷32人。
- ▼トリニダード・トバゴ スタッドロー・パーク沖 海岸から約6kmで転覆した船が、珊瑚礁に接触し、油が流出。海岸線15kmが黒く染まる。
- ▼ペルー リマ 化学物質を扱う工場で火災。近隣の住宅20棟全焼。消防隊員ら5人負傷。
- ▼インド ニューデリー 塗装工場で火災。爆発で建物倒壊し、近隣にも延焼。死者不明11人、負傷4人。
- ▼アメリカ バージニア州 住宅街でガス漏れによる大規模爆発。消防士ら巻き込まれる。死者1人、負傷15人。
- ▼中国 江蘇省 アルミニウム棒製造工場で爆発。大量の液体アルミが井戸に漏れて水と接触。死者不明5人、負傷13人。
- ▼スペイン バレンシア 14階建集合住宅で火災。強風にあおられて建物全体に拡大、2棟全焼。死者不明10人、負傷15人。
- ▼中国 広東省 コンテナ船が橋の橋脚に衝突し橋の一部が崩落。走行中のバスやトラックなどが転落。死者不明5人、負傷2人。
- ▼中国 山西省 金属加工業のコークス工場で一酸化炭素中毒。死者4人。
- ▼タンザニア アルーシャ近郊 ケニア国境を結ぶ道路でブレーキ故障のトラックが車両3台に衝突。死者不明25人、負傷21人。
- ▼中国 江蘇省 マンションの電動バイク置き場から出火し火災。最上階の34階付近まで燃える。死者不明15人、負傷44人。
- ▼アメリカ テキサス北部 州史上最悪の大規模な山火事。60の郡に災害宣言。多数の住宅や牧場にも被害。死者2人。
- ▼バングラデッシュ ダッカ 複数の飲食店が入居する7階建商業ビルで火災。1階から上階に燃え広がり、逃げ遅れ多数。死者不明22人、負傷20人以上。

（資料・引用）災害情報 早稲田大学理工学術院総合研究所編集発行、ほか